

九州大学における業務DXの取組について

九州大学情報システム部情報企画課課長補佐
データ駆動イノベーション推進本部 業務DX推進部門
上田 将嗣



九州大学

2022.4設置

Kyushu University

VISION 2030

総合知で社会変革を牽引する大学へ

2つの本部を核とした
イノベーションの推進



未来社会デザイン統括本部

- 多様なステークホルダーが参画し、本学が取り組むべき社会的課題の提案
- 総合知を生かした課題解決の取組を推進



データ駆動イノベーション推進本部

- データ駆動型のアプローチにより、**教育・研究・医療の質を飛躍的に向上させる。**
- **新たなデジタル社会のあるべき姿を提案し、社会に発信する。**

【部門構成】

運営・企画部門

デジタル社会創造研究部門

ラーニングアナリティクス部門

次世代型オープンエデュケーション推進部門

研究データ管理支援部門

**まずは、5部門でスタート
⇒段階的に部門を設置**

「データ駆動型の教育・研究・医療」推進の主体となる教員の活動を円滑に進めるために、業務の最適化が不可欠

- 本学IR室による「研究時間確保のためのエフォート分析」において、研究時間を確保できない要因を分析

1位：管理運営エフォート **2位：教育エフォート** **3位：事務関連業務**

※589人の承継教員（全体の3割弱）のアンケート回答より

<教員の意見（一例）>

- ◆ もっと業務をデジタル化すれば効率化できるのでは？
- ◆ 一度提供した情報は事務間で共有できるのでは？
- ◆ 全学的な視点で事務の在り方や進め方を見直した方がよいのでは？

2022年度実施



データ駆動イノベーション推進本部

- データ駆動型のアプローチにより、**教育・研究・医療の質を飛躍的に向上させる。**
- **新たなデジタル社会のあるべき姿を提案し、社会に発信する。**

【部門構成】

運営・企画部門
デジタル社会創造研究部門
ラーニングアナリティクス部門
次世代型オープンエデュケーション推進部門
研究データ管理支援部門
健康医療DX推進部門（2023.4設置）

業務DX推進部門（2023.5設置）

データ分析支援部門（2024.4設置）

業務DX推進部門

（情報システム部・総務部総務課）

データ及びデジタル技術の活用により、
大学業務の質の飛躍的向上

教員
研究時間確保



職員
業務効率化

業務DX推進プロジェクト

業務プロセス再構築(BPR)

業務における生成AI活用

DX人材育成

間接的に教育・研究・医療
の質の向上に貢献

Kyushu University

VISION 2030

総合知で社会変革を牽引する大学へ

DX

本部長：石橋総長 副本部長：谷口理事

データ駆動イノベーション推進本部

データ駆動型のアプローチにより、**教育・研究・医療の質を飛躍的に向上させる**

【設置部門】

運営・企画部門

デジタル社会創造研究部門

ラーニングアナリティクス部門

次世代型オープンエデュケーション推進部門

研究データ管理支援部門

健康医療DX推進部門

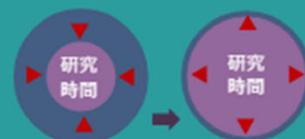
...

業務DX推進部門

データ及びデジタル技術の活用による業務の質の飛躍的向上を目指す

STEP 1

デジタル技術を活用した業務プロセスの見直しによる業務の効率化



教員の教育研究時間の確保

STEP 2

業務プロセスの標準化とフルクラウド環境の整備による業務の最適化



生じた余剰を教育研究支援業務に再配分

STEP 3

業務データ・各種システムの統合と分析 → 大学の意思決定に戦略的利活用



データドリブンの大学経営で教育研究を強かに推進

業務DX推進プロジェクト（2023年度～）

- ・学内公募によりプロジェクトメンバーを募集（令和5年度は、68人の職員が参集）
- ・取り組む課題に応じてユニットを形成
- ・課題解決に向けた新たな業務プロセスをアジャイルな手法を用いて開発
- ・総長・理事等執行部によるガイダンス・評価・フィードバック

< 3つの留意点 >

経営陣の
リーダー
シップ

現場の
アイデアを
集結

カルチャー
変革に
フォーカス

< プロジェクトの方向性 >

デジタル化ではなくDX

業務プロセスを変え、そこにデジタルを適用

< 業務プロセス変革の考え方 >

デジタルファースト

個々の業務が一貫して
デジタルで完結

ワンスオンリー

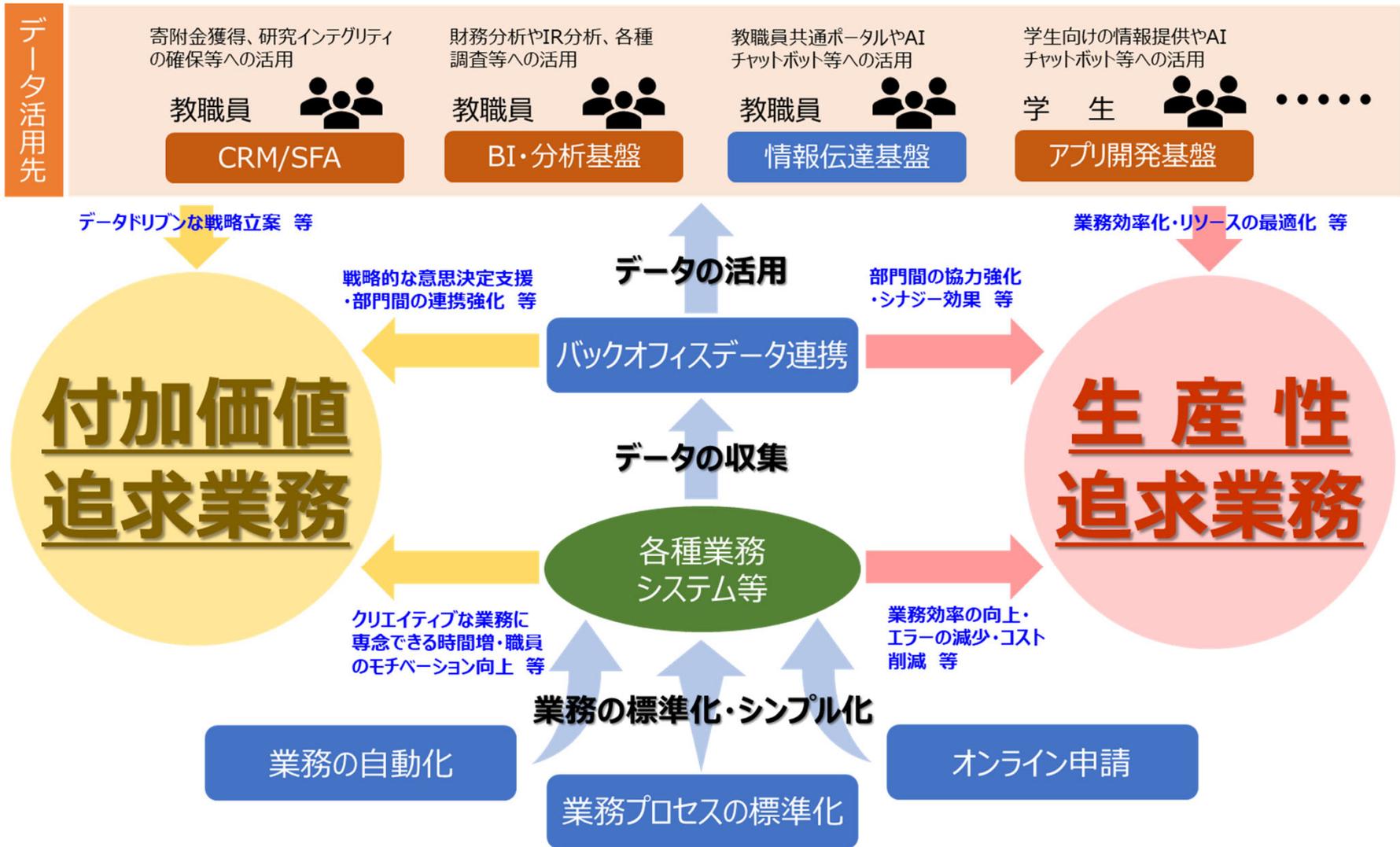
一度提出したデータは
再度の提出が不要

コネクテッド・ワンストップ

法人内の各種業務の連携も含めた
ワンストップ化を推進

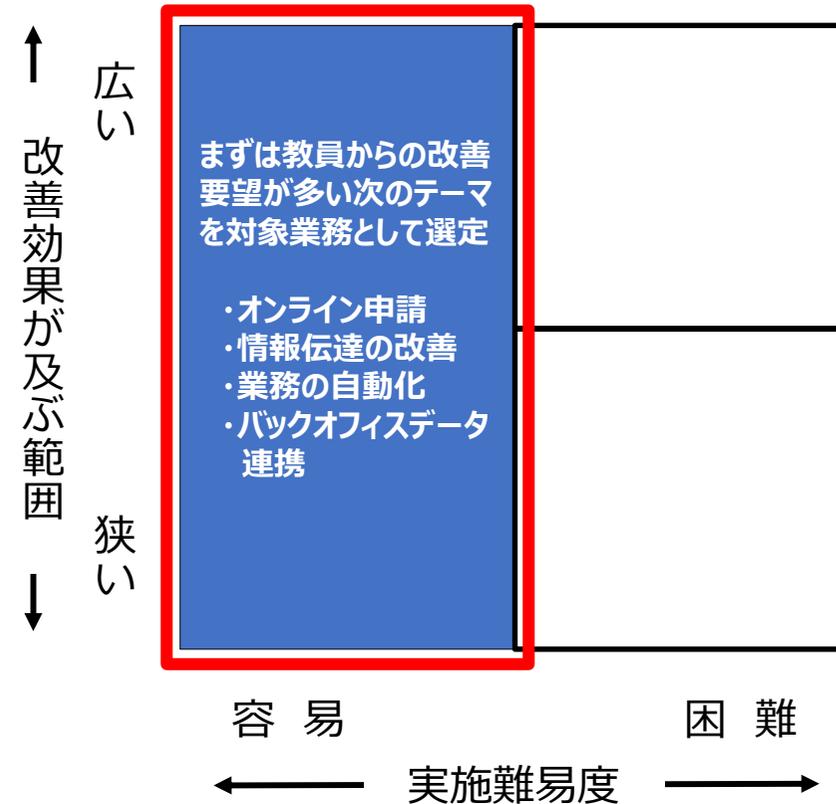
部署・業務横断による業務プロセスの標準化

部署や業務を横断したバックオフィスデータ連携によるデータの最大活用
クラウドサービスを活用した「Fit to Standard」による業務プロセスの標準化



2023年度活動概要

- 学内公募により、若手職員68名が自薦で当該プロジェクトに参画（9ユニット）
- 本務に従事しながら一定の-effort（20%程度）を割く「実践型研修」として、2023年8月より活動開始
- 日常の業務において感じている問題点を起点に、業務DXに向けた課題設定、解決策の検討を行い、まずは実施難易度が容易な領域から業務の見直しを開始



2023年度活動結果

オンライン申請

- ・申請フォームの活用・普及
- ・日程調整ツールの導入
- ・学内文書の在り方見直し
- ・新人事給与統合システムの検討
- ・複雑化する規則・通知の見直し
- ・各種届出様式のオンライン化
- ・業者用相手先登録依頼書オンライン申請フォーム作成
- ・Microsoft Forms の活用マニュアル作成
- ・各種奨学金申請システム作成
- ・公欠申請システム作成
- ・学籍移動受付システム作成
- ・大学院入試業務デジタル化事例集作成

情報伝達の改善

- ・メールの書き方ガイドライン制定
- ・マニュアル作成ガイドライン制定
- ・情報伝達グッドプラクティス共有サイト構築

業務の自動化

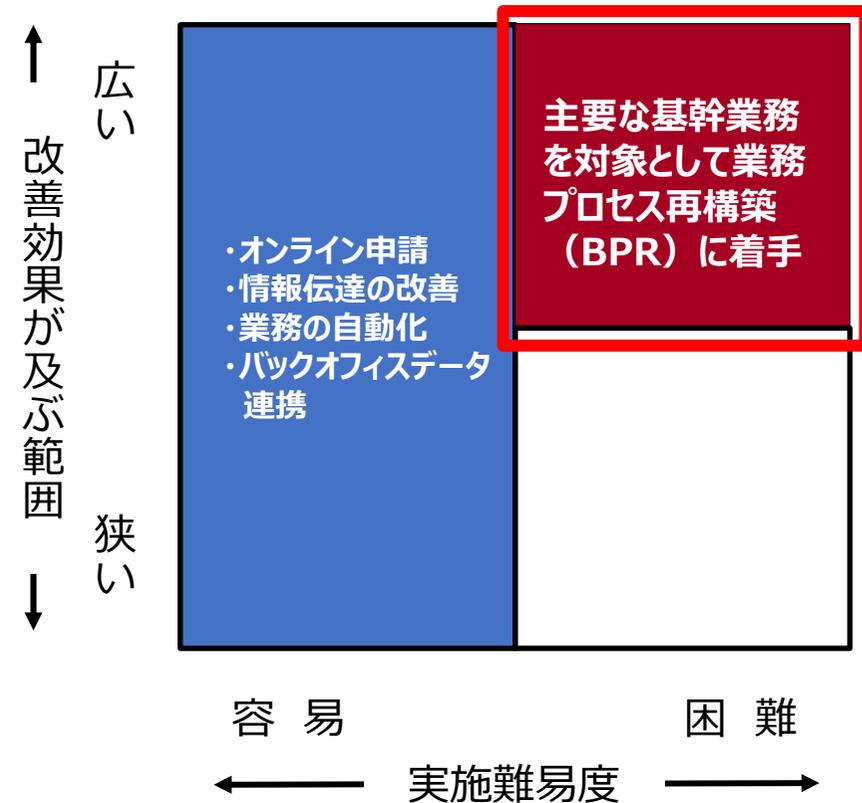
- ・BizRobo!でのロボット作成（相手先マスタ登録）
- ・Power Automate 勉強会開催
- ・自動化の事例・ツール公開サイト
- ・共済組合事務負担金の振替処理
- ・人事給与統合システム改修（仕様変更）

バックオフィスデータ連携

- ・SGU調査データ連携試行
- ・研究者Inbound/Outbound調査のケーススタディ

2024年度活動概要

- 業務DX推進プロジェクトを「実践型の研修」から「**事務局及び部局事務部協働プロジェクト**」に変更し、組織的なプロジェクトと位置づける
- プロジェクト構成員については、各部署より人事発令による「**DX推進オフィサー**」を選出し、**業務として当該プロジェクトに関与**する（**40名・5ユニット**）
- 昨年度から実施している対象業務に加え、**主要な基幹業務の業務プロセス再構築（BPR：ビジネスプロセス・リエンジニアリング）**に着手



2024年度活動計画

オンライン申請

- ・銀行口座情報の財務会計システムへの登録申請のオンライン化
- ・学内文書のあり方見直し
- ・共同研究申請のオンライン化
- ・諸手当 現況届の電子化
- ・学務系窓口業務のオンライン化
- ・大学院入試出願のオンライン化

業務の自動化

- ・RPAの普及
- ・RPA以外の業務自動化
- ・人件費振替処理効率化
- ・大学&企業DX視察

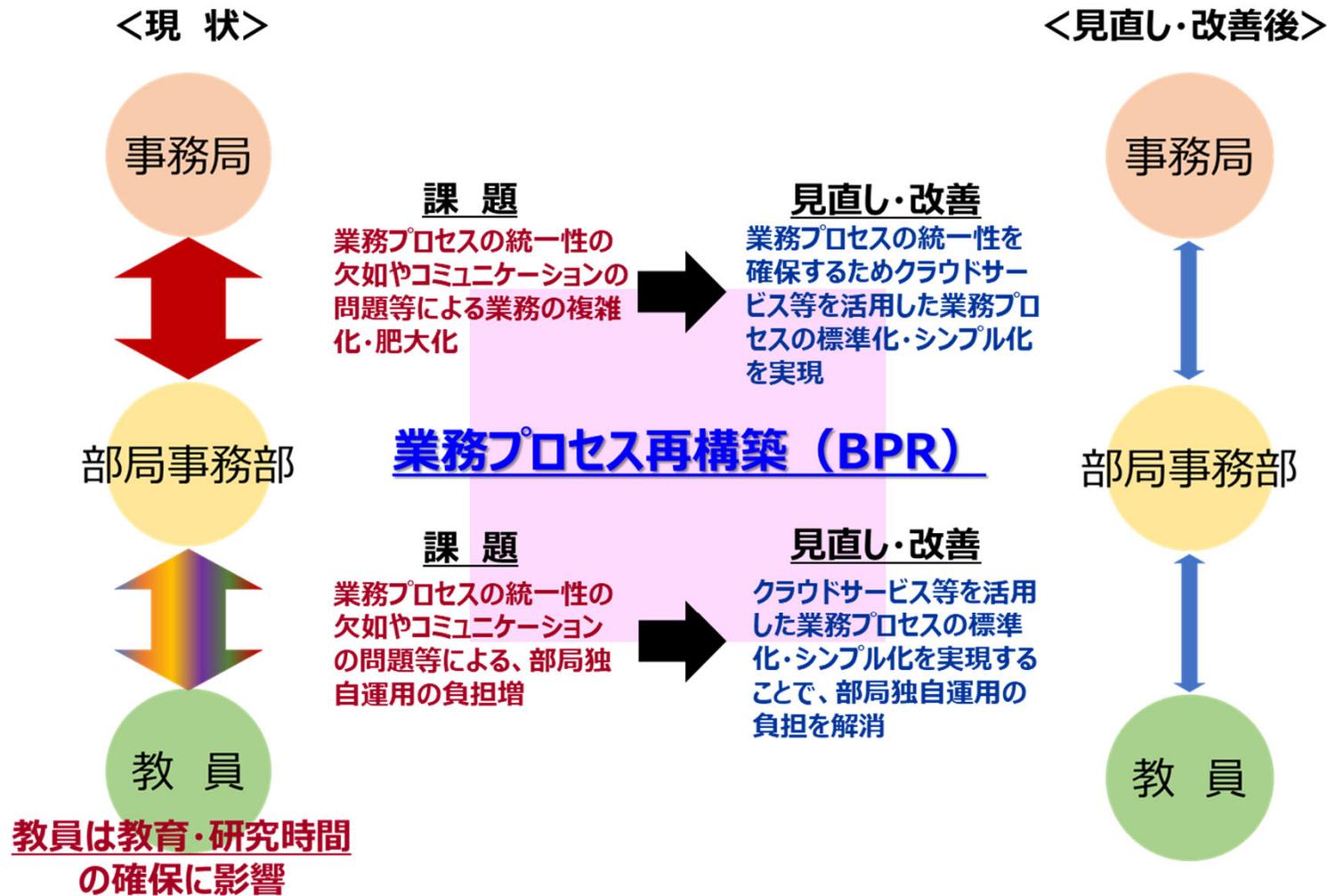
情報伝達の改善

- ・全学ポータル導入
- ・職員間チャットツール運用
- ・問い合わせ対応ツールの導入
- ・会議・資料のデジタル化

バックオフィスデータ連携

- ・学内の保有データ調査
- ・海外渡航及び受入情報集約ツールの開発
- ・FR業務支援ツールの開発
- ・データ加工等の定型業務の効率化
- ・データプラットフォーム選定のための市場調査

業務プロセス再構築（BPR）



業務における生成AI活用（2023年度）

● ChatGPT 運用

Microsoft Azure Open AI Service を利用した Teams の ChatGPT アプリ（Ada）を開発し、2023年9月から事務系職員向けに運用

・利用状況

利用者数：約100名／日、約500名／月 会話数：約600／日

● ChatGPT 活用オンラインセミナー

事務系職員の業務における Chat GPT の活用促進を目的に2回実施

・基礎編（約300名参加） 応用編（約220名参加）

● ChatGPT 利用者アンケート

事務系職員に対してアンケートを2回実施（2023年11月、2024年2月）

● AIチャットボット開発に向けた検証

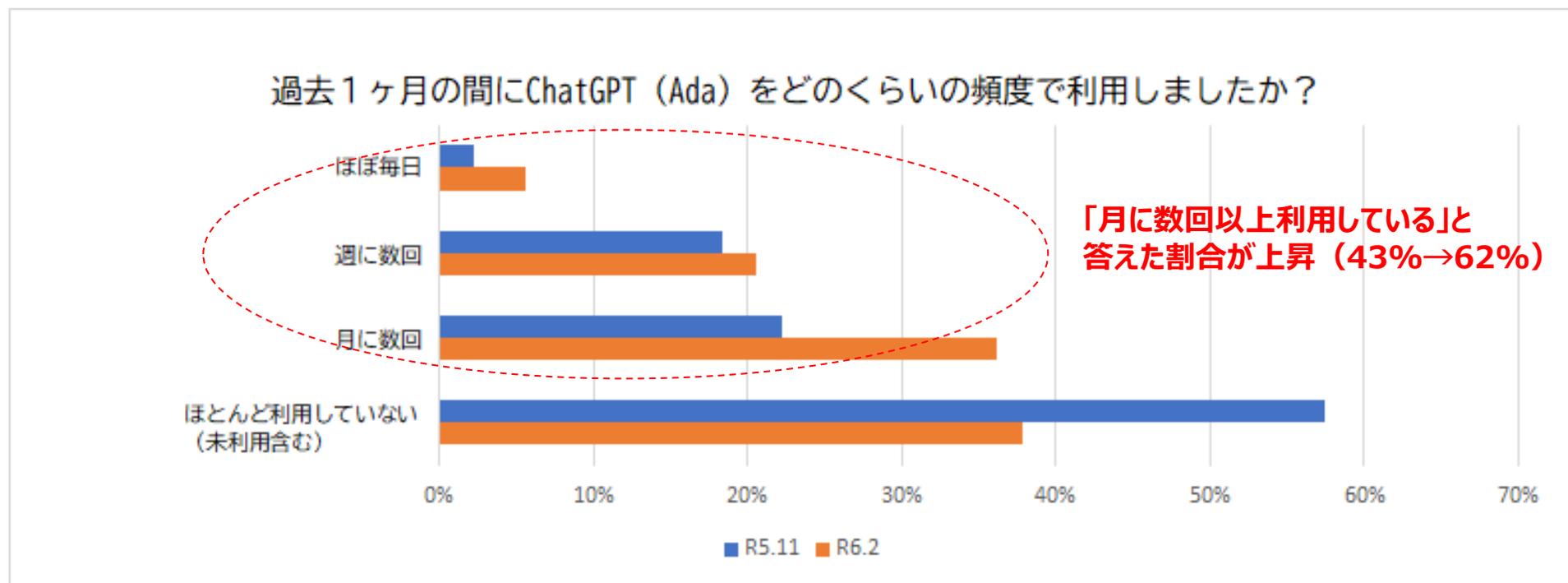
Azure AI Search を利用し、学内文書から回答を生成する RAG を検証

・対象：学内規則、九州大学概要、教員ハンドブック等の886文書

回答精度が悪く、ハルシネーション防止や精度向上が課題

業務における生成AI活用（2023年度）

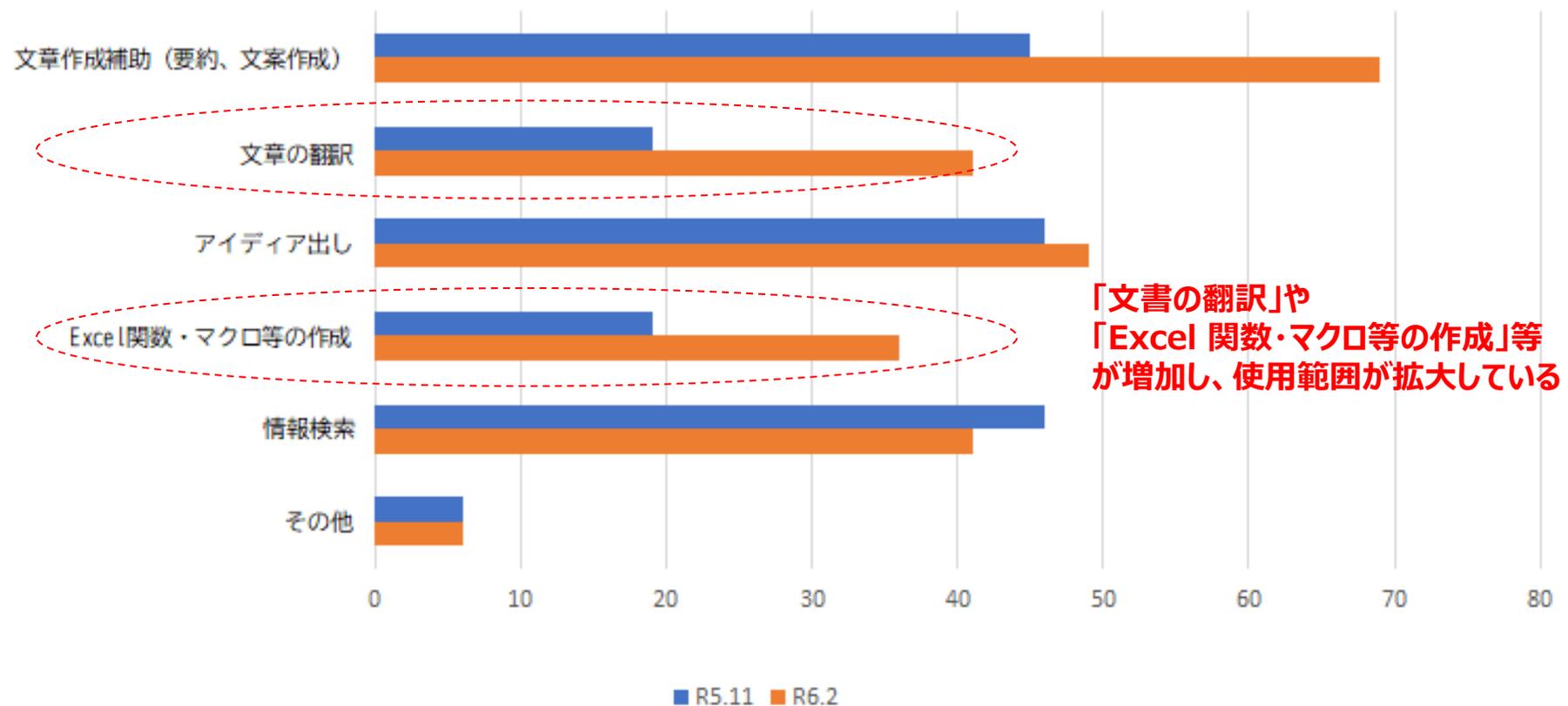
ChatGPT 利用者アンケート



業務における生成AI活用（2023年度）

ChatGPT 利用者アンケート

ChatGPT（Ada）を利用する際の主な目的は何ですか？（複数選択可）



「文書の翻訳」や
「Excel 関数・マクロ等の作成」等
が増加し、使用範囲が拡大している

■ R5.11 ■ R6.2

業務における生成AI活用（2024年度）

● Microsoft Copilot

2024年6月に、Microsoft Copilot（Microsoft 365 A1/A3 ライセンスによる商用データ保護）を全学に展開

⇒ 費用面・継続性の観点から ChatGPT アプリ（Ada）は2024年9月末でサービス終了予定

● 学内文書の日英二言語化

2025年度より実施予定の学内文書の日英二言語化に向けて、DeepL／Chat GPTアプリ（Ada）／Microsoft Copilot を利用した試験運用を行っている

● 生成AI関連セミナー

基幹教育院 次世代型大学教育開発センター及び未来人材育成機構が、大学教職員職能開発FDを実施しており、業務DX推進プロジェクトメンバーを中心に事務職員も積極的に参加

デジタルスキルアセスメント

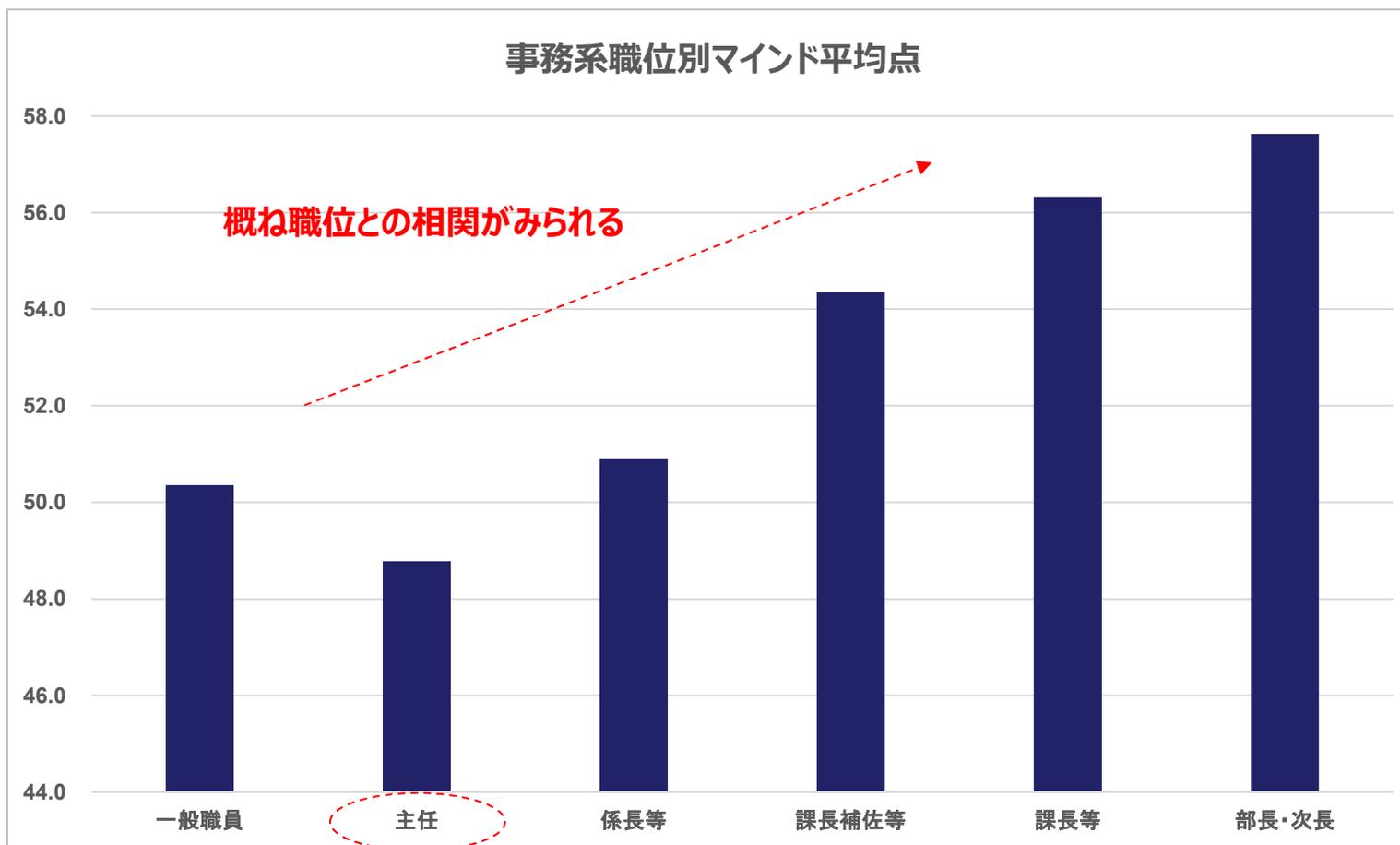
業務DXを組織全体で進めるため、経済産業省が定めるデジタルスキル標準に沿ったアセスメントにより職員のデジタルスキルを可視化

事務系職員 1,230名に対して実施し、9割弱（1,093名）が受験

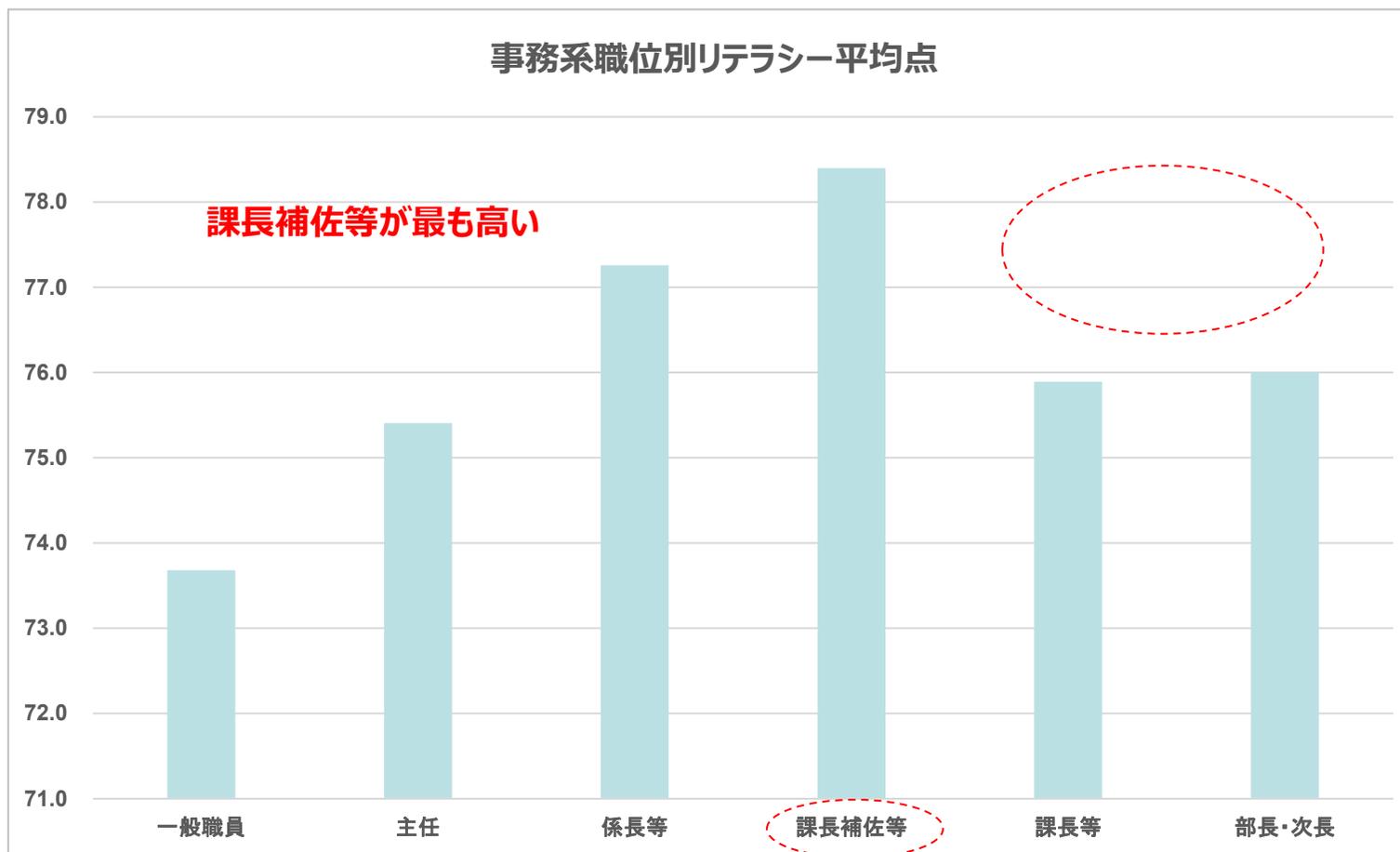
マインド・スタンス		DXリテラシー	
カテゴリー	判定	カテゴリー	判定
変化への適応力	C	社会変化へのデジタル対応の理解力	B
コラボレーション力	C	データ活用と分析力	B
実験を繰り返す力	C	デジタル技術理解力（AI、クラウド）	C
問題発見・課題形成力	D	デジタル技術理解力（システム関連）	B
事実・データに基づく判断力	C	デジタル技術の利活用力	D
		セキュリティ、コンプライアンス	A

※A～Dの4段階評価

デジタルスキルアセスメント



デジタルスキルアセスメント



業務DX推進プロジェクト

- ★プロジェクト体制の継続
- ★業務プロセス再構築（BPR）の推進
- ★業務における生成AI活用
情報伝達などへの活用
学内データの蓄積とその活用

DX人材育成

- ★デジタルスキルアセスメントの結果を踏まえた人材育成